

HKKR-06



エコアクション21[®]
認証番号 0011864

環境経営レポート

日本フィルター株式会社



第70期

【活動期間：2024年10月1日～2025年9月30日】



2025年12月18日 発行

目次

1. 組織の概要	2 P
2. 対象範囲	3 P
3. 実施体制	4 P
4. 環境経営方針	5 P
5. 環境経営目標	6 P
6. 環境活動計画	7 P
7. 運用実績	8 P
8. 問題点の是正処置及び予防処置の結果	9 P
9. 二酸化炭素の排出量の削減	10 P
10. 主要な環境活動の内容及び取組結果の評価	11 P
11. 環境関連法規への遵守状況の確認及び評価の結果	12 P
12—1. 販売製品による環境への貢献①	13 P
12—2. 販売製品による環境への貢献②	14 P
13. 太陽光レポート	15 P
14. 代表者による全体評価と見直しの結果	16 P
15. 主な活動内容	17 P

1. 組織の概要

1) 登録事業所の概要

(1) 事業者名及び代表者名

事業所名：日本フィルター株式会社
代表者名：代表取締役 橋本 ひろみ

(2) 所在地

- ①本 社 神奈川県横浜市戸塚区上矢部町 2107-3
- ②仙台営業所 宮城県仙台市泉区泉中央 1-23-6 トラストセンタービル 4階南
- ③名古屋営業所 愛知県名古屋市緑区南大高 2-115 Prosbell 南大高 2階
- ④大阪営業所 大阪府茨木市別院町 1-21 リアライズ茨木駅前ビル 2階
- ⑤熊本営業所 熊本県熊本市東区沼山津 1-10-24
- ⑥米沢事業所 山形県米沢市八幡原 3-446-10

※日本フィルター株式会社 米沢事業所は EA21 認証登録済みの為、本社・営業所取得には含めず。
認証・登録番号 0001461

(3) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者：総務部 本社総務課 課長 渡辺重明
連絡先 : TEL) 045-811-1532 FAX) 045-813-7735
E-mail) s.watanabe@nihon-filter.co.jp

(4) 事業内容

- ・精密ろ過機の設計・販売
- ・純水製造装置の設計・販売
- ・排水リサイクル装置の設計・販売
- ・装置メンテナンス

(5) 事業規模

会計年度：当年10月1日～翌年9月30日

項目	単位	第 68 期	第 69 期	第 70 期
		22.10-23.09	23.10-24.09	24.10-25.09
売上高	百万円	3,477	3,709	4,453
従業員数	人	87	88	88

※期末人員数（米沢事業所除く）

2. 対象範囲

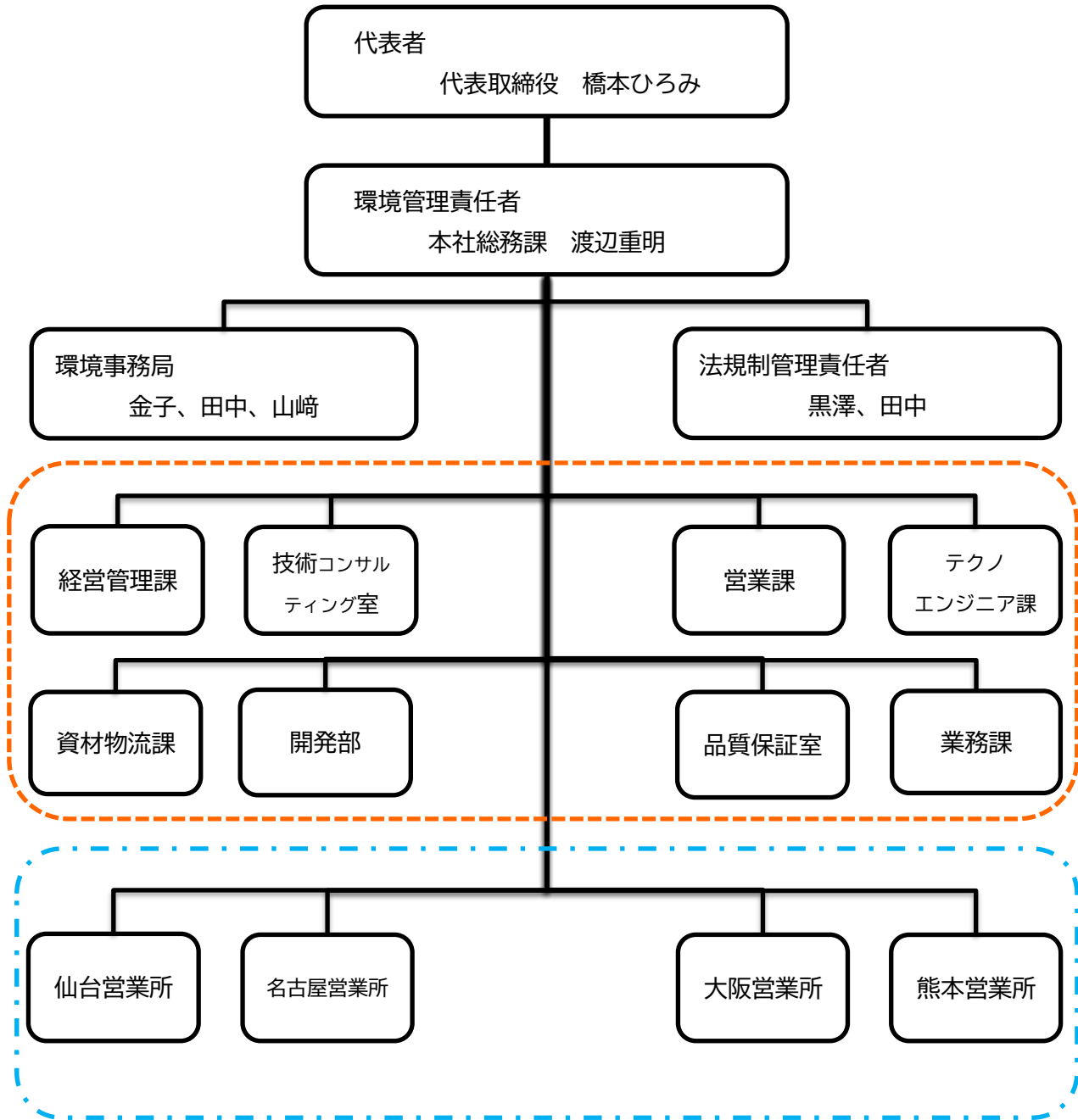
本社及び4営業所

※日本フィルター株式会社 米沢事業所は EA21 認証登録済みの為、本社・営業所取得には含めず。
認証・登録番号 0001461

3. 実施体制

環境マネジメントシステム

実施体制-組織



は本社、 は営業所

4. 環境経営方針

【企業理念】

私たち日本フィルター株式会社は、水処理技術と精密ろ過技術を通して、かけがえのない地球の水環境を護る製品を世の中に送り出すと同時に、研究開発・設計・販売・アフターフォローにいたるまで、総合メーカーとしての自覚と責任を持って、地球環境を護る配慮を継続して行います。

【環境方針】

当社の企業理念に基づき、排水リサイクル装置、精密ろ過装置、純水製造装置及びその周辺機器等の研究開発、設計、販売、メンテナンス及び入出荷業務やその他の管理業務など、一貫した事業活動を通じ環境保全に取り組めます。

また、その取組を継続的なものにするため、企業そのものの存続を確実にするための経済的な利益創出との両立に全力を上げて取り組めます。

1. 環境活動プログラム「エコアクション21」を運用し、全社員が参加して環境活動の継続的な維持、改善を推進します。
2. 全拠点の活動を通じ、環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で目標を定め、環境保全活動の継続的な改善に努めます。
3. 環境に関する法規及びその他の要求事項を遵守し、地域社会との調和に努めます。
4. 全拠点の事業活動における環境負荷の削減及び改善をはかるために、次の事項について重点的に取り組めます。
 - 1) 二酸化炭素排出量の削減
 - 2) 廃棄物の発生抑制と分別収集の徹底
 - 3) 水資源の保護
 - 4) グリーン調達推進
 - 5) 地域社会との共生
5. 社員への環境方針の周知と環境意識の向上をはかり、環境方針及び環境活動報告は開示します。

2018年10月1日
日本フィルター株式会社
代表取締役 橋本 ひろみ

5. 環境経営目標

No.	テーマ	基準値 第68期 22.10-23.09	目標値 第70期 24.10-25.09	目標値 第71期 25.10-26.09	目標値 第72期 26.10-27.09
1	電気使用量	214,539kWh	基準値の0.5%削減 213,466kWh以下	基準値の0.5%削減 213,466kWh以下	基準値の0.5%削減 213,466kWh以下
2	燃料	ガソリン 37,949L	基準値の0.5%削減 ガソリン 37,759L以下	基準値の0.5%削減 ガソリン 37,759L以下	基準値の0.5%削減 ガソリン 37,759L以下
		軽油 9,502L	基準値の0.5%削減 軽油 9,454L以下	基準値の0.5%削減 軽油 9,454L以下	基準値の0.5%削減 軽油 9,454L以下
3	総排出量	211,034kg-CO ₂	基準値の0.5%削減 209,979kg-CO ₂ 以下	基準値の0.5%削減 209,979kg-CO ₂ 以下	基準値の0.5%削減 209,979kg-CO ₂ 以下
4	一般廃棄物 排出量の削減	1,575kg	基準値の0.5%削減 1,567kg以下	基準値の0.5%削減 1,567kg以下	基準値の0.5%削減 1,567kg以下
5	産業廃棄物 排出量の削減	4,390kg	基準値の0.5%削減 4,368kg以下	基準値の0.5%削減 4,368kg以下	基準値の0.5%削減 4,368kg以下
6	総排水量の削減	991m ³	基準値の0.5%削減 986m ³ 以下	基準値の0.5%削減 986m ³ 以下	基準値の0.5%削減 986m ³ 以下
7	環境製品水資源機器 販売拡大	-	販売拡大 (7台以上)	販売拡大 (7台以上)	販売拡大 (7台以上)
8	環境製品Zスキャン スラッジ量の削減	-	販売拡大 (30社以上)	販売拡大 (30社以上)	販売拡大 (30社以上)
9	清掃活動	毎週社外清掃	毎週社外清掃	毎週社外清掃	毎週社外清掃

※基準値は第68期実績

6. 環境活動計画

環境活動計画の内容	実行責任者	確認
●販売製品による環境への貢献		
環境製品水資源機器販売拡大（販売7台以上）	営業部	年
環境製品Zスキャン スラッジの削減量（販売30社以上）	営業部	年
●電力使用量の削減		
空調の適温化の徹底（暖房23℃、冷房26℃以上）	総務課	毎月
デマンド監視による節電の実施（本社）	総務課	毎月
昼休み等、不必要時の消灯の徹底	総務課	毎日
エレベーターの使用制限	社員	都度
●燃油使用量削減		
燃費量の把握、急発進、急減速の抑制、アイドリングストップの励行	車両管理者	毎月
●廃棄物排出量の削減		
用紙の分別及びリサイクル化の徹底、	総務課	毎月
廃棄物の分別の徹底、OA用紙使用量の削減	社員	毎月
●清掃活動		
毎週会社外周清掃	社員	毎週
●水使用量の削減		
節水意識の徹底（表示）、手洗い場水道、	総務課	都度
トイレの洗浄水量の管理	総務課	都度

7. 運用実績

項 目	単位	第68期	第69期	第70期	目標値との比較	達成状況	
		22.10-23.09	23.10-24.09	24.10-25.09		是正措置	
人数	人	87	88	88			
環境製品水資源機器販売拡大	台	7	8	10	43% (増加)		
環境製品Zスキャンスラッジ量の削減	台	37	38	52	73% (増加)		
電気 使用量	絶対値	kWh	214,539	195,244	189,316	213,466	
	人頭					-24,150 (11%削減)	
ガソリン 使用量	絶対値	L	37,949	34,836	35,307	37,759	
	人頭					-2,452 (6%削減)	
軽油 使用量	絶対値	L	9,502	8,589	9,443	9,454	
	人頭					-11 (0.1%削減)	
灯油 使用量	絶対値	L	463	402	840	(目標値なし)	
	人頭					5	
水 使用量	絶対値	m ³	991	948	980	986	
	人頭					-6 (1%削減)	
CO ₂ 排出量	絶対値	kg-CO ₂	211,034	192,411	194,070	209,979	
	人頭					-15,909 (8%削減)	
一般 排出量	絶対値	kg	2,426	2,186	2,205	(目標値なし)	
	人頭					18	
産廃 排出量	絶対値	kg	1,575	1,231	745	4,368	
	人頭					-2,298 (53%削減)	
化学物質 削減	絶対値	L	4,390	1,060	2,070	4,368	
	人頭					50	
化学物質 削減	L	適正に管理し、 定期的に 確認した。	適正に管理し、 定期的に 確認した。	適正に管理し、 定期的に 確認した。	(目標値なし)	-	

8. 問題点の是正処置及び予防処置の結果

第70期の環境経営目標に対し、実績値が前年度を上回った項目、および目標未達成となった項目について、以下の通り原因分析と是正処置を実施しました。

(1) 水使用量の増加に対する是正処置

不適合の内容:

第70期の水使用量が目標範囲内であったものの、前年度実績と比較して増加した。特に熊本営業所において、特定月の検針値が通常(約6 m³/月)の5倍以上となる**32 m³**を記録した。

原因の分析:

熊本営業所内のトイレにおいて、洗浄レバーが内部で引っかかり、元の位置に戻らなくなったことで、長時間水が流れ続ける事態(出しっぱなし)が発生した。

1. 物理的要因: 経年劣化によるレバー稼働部の不具合。
2. 管理不足: 最終退出時の水回り確認が不十分であり、異常(流水音)の発見が遅れた。

実施した是正処置:

設備の修理・点検: 発生後直ちにトイレタンク内の部品(レバーおよびフロート弁)を新品に交換し、正常に止水することを確認した。また、他拠点のトイレについても同様の不具合がないか緊急点検を実施した。

視覚的啓発の刷新: 熊本営業所を含む全拠点の水場に対し、視認性の高い「節水・止水確認サイン」を再整備(リニューアル貼付)した。

(2) 車両燃料(ガソリン・軽油)の使用量増加に対する是正処置

現状の評価:

ガソリン: 前期 34,836L → 今期 35,307L (目標内だが前年比 471L 増加)

軽油: 前期 8,589L → 今期 9,443L (目標内だが前年比 854L 増加)

原因の分析:

活動量の増大: 部門における遠方顧客への訪問回数に伴う走行距離の増加。

車両構成の変化: メンテナンス機材運搬用のディーゼル車の稼働率が前年より高まった。

運転習慣: エコドライブ(急発進抑制・アイドリングストップ)の徹底が一部で疎かになった。

実施した是正処置:

エコドライブの再教育: 全ドライバーに対し「ふんわりアクセル」と「アイドリングストップ」の再周知した。

9. 二酸化炭素の排出量の削減

		第68期		第69期		第70期		要因 (第68期との比較)
		22.10-23.09		23.10-24.09		24.10-25.09		
項 目	排出 係数	消費量	排出量	消費量	排出量	消費量	排出量	
			(kg-CO ₂)		(kg-CO ₂)		(kg-CO ₂)	
電力(本社) 消費量kWh	0.455	183,403	83,448	164,625	74,904	158,848	72,276	太陽光設置効果
電力(仙台) 消費量kWh	0.528	7,574	3,999	6,968	3,679	7,272	3,840	大きな変化なし
電力(名古屋) 消費量kWh	0.452	6,341	2,866	6,741	3,047	6,749	3,051	大きな変化なし
電力(大阪) 消費量kWh	0.45	10,058	4,526	9,052	4,073	8,047	3,621	大きな変化なし
電力(熊本) 消費量kWh	0.347	7,163	2,486	7,858	2,727	8,400	2,915	大きな変化なし
ガソリン 消費量L	2.32	37,949	88,042	34,836	80,820	35,307	81,912	大きな変化なし
軽油 消費量L	2.58	9,502	24,515	8,589	22,160	9,443	24,363	大きな変化なし
灯油 消費量L	2.49	463	1,153	402	1,001	840	2,092	残業増加
合計			211,035		192,411		194,070	

※ガソリン・軽油・灯油は本社・営業所全ての合計（灯油は本社のみ使用している）

※電力算出に使用した係数は、環境省「電気事業者別排出係数（地方公共団体実行計画における温室効果ガス総排出量算定用）」を利用

本社：2018年度（平成30年）東京電力の排出係数実績 0.455(kg-CO₂/kWh)

仙台：2018年度（平成30年）東北電力の排出係数実績 0.528(kg-CO₂/kWh)

名古屋：2018年度（平成30年）中部電力の排出係数実績 0.452(kg-CO₂/kWh)

大阪：2018年度（平成30年）中央電力の排出係数実績 0.450(kg-CO₂/kWh)

熊本：2018年度（平成30年）九州電力の排出係数実績 0.347(kg-CO₂/kWh)

※温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン（2015年環境省）ガソリン、軽油、灯油

10. 主要な環境活動の内容及び取組結果の評価

環境活動計画の内容		実施状況	評価	次年度
6. 環境製品水資源機器販売拡大		10 台販売	○	継続
7. 環境製品 L スキャン スラッジの削減量		52 社販売	○	継続
二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電力使用量の削減 ①空調の適温化の徹底 ②デマンド監視による節電の実施 (本社のみ) ③昼休み等、不必要時の消灯の徹底 ④営業所事務所電灯の LED 化 ⑤エレベーターの使用制限(本社のみ) ⑥パソコン画面 15 分電源オフ設定 ⑦トイレ便座を閉じる	空調、デマンド値、昼電気は 総務課にて確認。 ④LED については費用面も有り 今後の検討とする。	○	継続
	燃油使用料削減 ①燃費量の把握 ②急発進、急減速の抑制 ③アイドリングストップの励行	燃費確認し急発進、急減速の 抑制を実行している。	—	継続
廃棄物排出量の削減 ①廃棄物の分別の徹底 (排出時の計量の実施) ②OA 用紙使用量の削減 (両面コピー、電子化等) ③用紙の分別及びリサイクル化の徹底 (1 ヶ月毎に計量) ④事務所内プラスチック廃棄物の分別		紙、プラスチックについては 毎月計量確認。	○	継続
清掃活動 ① 毎週会社外周清掃 (本社)		チェック表にて確認	○	継続
水使用量の削減 ①節水意識の徹底 (表示) ② 手洗い場水道、トイレの洗浄 水量の管理		総務課にて表示、調整	○	継続

数値項目については毎月インフォメーションにて管理者に配布。

(電気・水道・デマンド値・燃費・ゴミ重量等)

11. 環境関連法規への遵守状況の確認及び評価の結果

並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況

適用される法規制	遵守状況	遵守評価
廃棄物処理法	マニフェストにより確認	○
消防法	防火責任者の専任済 避難訓練実施	○
労働安全衛生法	安全、衛生管理者の選出、届出済	○
省エネルギー法	指定対象外	○
家電リサイクル法	期日内対象品なし	—
フロン排出抑制法	業務用空調機	○
下水道法	特定施設の届出、水質測定記録	○
P R T R法	一定基準以上であれば届出	○

当社における環境関連法規への違反・訴訟・苦情等、過去3年ございませんでした。

12-1. 販売製品による環境への貢献①

排水用のリサイクル装置を販売することにより、工場が発生する排水を再利用し、水資源の使用量の削減に取り組んでおります。

第70期においては、5社に対して10台の装置を販売し、推定102,500m³の水使用量の削減※となりました。

※販売した装置が、一年間稼働した場合の水資源の削減見込量を示しております。



浮遊床式イオン交換装置
クリーンフローRC



固定床式イオン交換装置
オートライナーRC

過去3期の実績は下記となります。

第69期	39,290m ³
第68期	59,530m ³
第67期	73,880m ³

■目標販売台数7台に対して、10台販売し目標達成



12-2. 販売製品による環境への貢献②

排水処理において、排水中の懸濁物質（SS）を凝集させるために鉄・カルシウムなどの助剤を使用しますが、この助剤を投入することでスラッジ（汚泥）の量が増え、廃棄物量が増大してしまいます。

これに対し、当社では「Z スキャン」という排水処理剤を開発し、従来、処理が難しかった難処理排水に対しても排水規制値をクリアーできるレベルまでの処理を可能にしました。

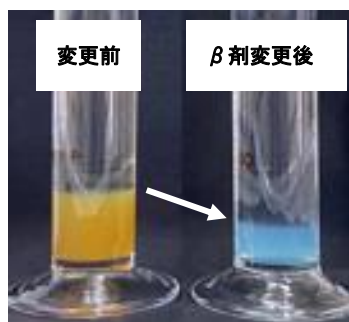
同時に、「Z スキャン」は鉄・カルシウムなどの助剤を使用しなくても処理が可能のため、処理後のスラッジのボリュームを減らすことが可能となりました。

排水の種類により、20%から50%もの汚泥の減容化に成功しています。

第70期においては52社に「Z スキャン」を販売し、359 ton のスラッジ量削減[※]を行うことができました。

※平均スラッジ削減率は30%で、一年間稼働した場合のスラッジの削減見込量を示しています。

（条件：排水量10 m³/h, 8h/d, 220d/y, 排水濃度0.3 kg/m³, スラッジ含水率75%）



スラッジボリュームの変化

スラッジ（SS量）の削減例

	変更前	β剤変更後	予想削減率 (%)
A社	0.31	0.21	32
B社	1.06	0.53	50
C社	0.61	0.48	21
D社	0.68	0.41	39

単位：kg/m³

過去3期の実績は下記となります。

第69期	263 ton
第68期	255 ton
第67期	158 ton



13. 太陽光レポート

1. 取組内容

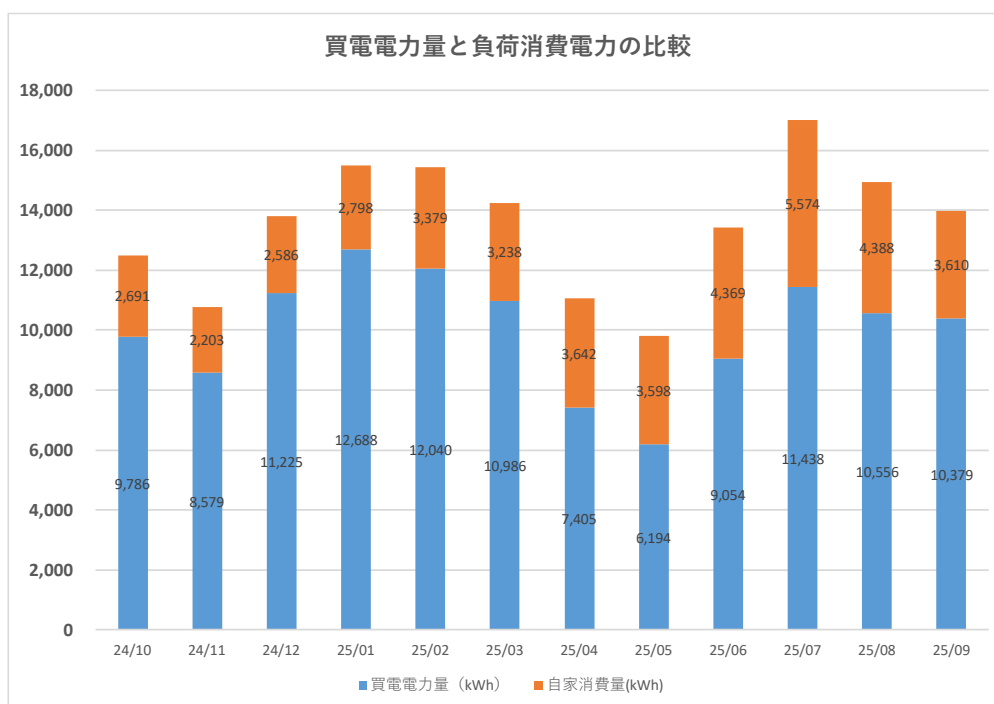
当社では、再生可能エネルギーの活用によるCO₂排出量削減を目的として、本社ビル屋上に自家消費型太陽光発電設備（41.4kW）を設置し、2024年2月2日より稼働を開始しました。発電した電力はほぼ全量を自家消費に充て、電力購入量の削減に寄与しています。

2. 実績（2024年10月～2025年9月）

項目	数値	備考
設置容量	41.4kW	本社ビル屋上
年間発電量	42,077.370kWh	全量自家消費
自家消費量	42,076.370kWh	99.99%売電は行わず電力購入量を削減
CO ₂ 削減量	19,144.748kgCO ₂	25年7月に最大2,536kgCO ₂ を記録
購入電力削減%	25.9%	自家消費量÷使用量(162,406.370kWh)

2018年度（平成30年）東京電力の排出係数実績 0.455(kg-CO₂/kWh)

3. 買電電力量と負荷消費電力の比較



4. 評価・考察

- ・設備稼働初年度において、年間発電量は 42,077 kWh で、そのほぼ全量を自家消費しました。これにより年間の電力購入量が約 25.9% 削減され、CO₂ 排出量の削減にも寄与しています。（算出に用いた排出係数：東京電力 2018 年 0.455 kg-CO₂/kWh）。

14. 代表者による全体評価と見直しの結果

第70期となる今期（2024年10月～2025年9月）は、電気・燃料・水の使用量について、第68期の実績数値の概ね0.5%の削減を目標として取り組み、前期との比較では増加項目があるものの、目標としては、ほぼ達成することができました。

今期は大幅な売上増に伴う時間外勤務や移動燃料の増加、夏場の猛暑の中での目標達成となり、大きな目標値ではないものの、社員の環境活動への高い意識と取り組み姿勢によるものと評価します。

電気・燃料・水使用量等については、今後の大幅な削減は見込めず、大きく増加させないための継続活動の時期に入っています。

今回、熊本営業所で設備の不具合からの漏水発生があり、改めて各設備の再点検を指示しました。

2024年2月に本社ビル屋上に設置した太陽光発電装置による発電効果、それに伴うCO₂の削減も予定どおりの実績を確認できました。

次期は、本社ビル及び熊本営業所の照明のLED化を検討、計画します。

当社販売製品による環境貢献として【排水用リサイクル装置による水資源の削減】と【排水用特殊処理剤によるスラッジ量の削減】は年々販売数を伸ばしており、エコアクション21が目指す環境経営とも合致し、柱の取り組みとなっています。

環境経営方針に掲げている『かけがえのない地球の水環境を護る製品を世の中に送り出す』とも直結しており、更に推し進めてまいります。

外部からの苦情及び環境関連法令への違反はありませんでした。

環境経営方針に変更はありません。

実施体制に変更はありません。

15. 主な活動実績

◆節電活動（本社太陽光設備）

24年2月より運用開始

本社ビル年間使用電力の1/3を発電予定



◆節電活動（本社・4営業所エアコン温度設定）



冷房設定は事務所 26°C以上、会議室 27°C以上。

暖房設定は23°C以下。



◆節電活動（本社エアコン更新）

25年8月3階エアコン更新、電気使用量の少ないものに変更

（試算では、稼働時間における電力使用量を年間で約16%削減できる見込みです。）

（人感センサー搭載に伴い、羽の使用を見送った）



◆節電活動（本社デマンド値）

デマンド監視装置を設置して急激な電気使用を抑制する。

24年6月に機器更新し、電力使用量のグラフ確認が行えるようになった



◆節電活動（本社エレベーター使用禁止）



社員のエレベーター使用禁止
（台車使用時、重量物の運搬時は除く）



◆節電活動（本社・4営業所照明消灯）

日中使していないエリア（会議室、廊下等）は消灯。










昼休みは事務所内も消灯。



◆節電活動（LED）

	<p>2014年9月より本社蛍光灯 280 本を LED に変更 （一部利用頻度が少ない部分については蛍光灯） 年間約 13kW 節電</p>			
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="831 555 1027 745"> <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>  </td> <td data-bbox="1027 555 1224 745"> <p>12 つくる責任 つかう責任</p>  </td> <td data-bbox="1224 555 1426 745"> <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>  </td> </tr> </table>		<p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> 	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> 
<p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> 	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> 		

◆節電活動（パソコンモニター）

<p>離席時等（昼休みや会議・来客など）パソコンから長時間離れる際は、モニターの電源をOFFにする、ノートパソコンの場合は蓋を閉じるようにする。 基本は手動（設定は15分にて省エネモード）</p>	<h3>電源とスリープ</h3>			
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="172 1146 368 1335"> <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>  </td> <td data-bbox="368 1146 564 1335"> <p>12 つくる責任 つかう責任</p>  </td> <td data-bbox="564 1146 764 1335"> <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>  </td> </tr> </table>	<p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> 	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> 	<p>画面</p> <p>次の時間が経過後、ディスプレイの電源を切る（電源に接続時）</p> <p>15分 <input type="text"/></p>
<p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> 	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> 		

◆節電活動（トイレ温度設定等）



便座カバー・ウォシュレット温度設定期間
 5月11日から10月10日までは温オフ
 10月11日から翌年5月10日まで温オン

便座カバーを閉める
 便座カバーを閉め冷めないようにして節電する。



◆節水活動

2015年10月より社内水場に表示



◆廃棄物排出量の削減（本社廃プラリサイクル活動）



毎月第一週金曜日に片付け、重量計測。
 一般ごみ、廃プラスチックに分類



◆廃棄物排出量の削減（本社紙リサイクル活動）

コピー用紙、色紙、茶紙の3種類について分別。

毎月第一週目金曜日に片付け、重量計測。



◆清掃活動（本社）



毎週清掃、会社外周を各課持ち回りにて行う。



◆各営業所分別場所

仙台営業所

可燃ごみ、ペットボトル・缶・ビン、プラスチック、新聞、段ボール、雑誌に分類。



名古屋営業所

業務用可燃、業務用不燃、家庭用可燃、新聞、雑誌、段ボール、プラスチック、ペットボトル、缶、ビンに分類。



大阪営業所

一般ごみ、紙、プラスチック、段ボールに分類。



熊本営業所

可燃物、新聞、缶、ペットボトルに分類。



◆各種回覧データ

2015年10月より本社・営業所の毎月電気、水道、プリンター使用量、紙リサイクル、プラスチック重量データ、社用車燃費をグラフにまとめ社内回覧している。

